

テーマ：切除不能進行肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法は、
患者背景の相違によって、その有効性に相違があるかどうかの臨床疫学的検討
情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センター医療安全室では、以下にご説明します研究を実施します。
この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記
のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益
を受けることはございませんので、ご安心ください。

研究目的

切除不能進行肝細胞癌患者に対して、2020年からアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法
が可能になった。本治療の有効性はいまだ不明な点が多く、本治療開始までに受けた先行
治療や患者背景によって本治療の反応に相違があると推定する。当院における治療成績を
電子カルテおよびDPCデータを使用し、有効性を検討した。メインアウトカムは、本治療
による長期生存に寄与する個人背景の絞り込みである。

研究期間

2021年10月1日から2022年9月30日（1年間）の予定

研究の対象となる方

2020年11月1日から2021年8月31日に日本赤十字社和歌山医療センターで切除不能
肝細胞癌に対して、アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法を受けた方

研究の方法

電子カルテを使用して、匿名情報に加工したデータを使用します。このデータをもとに、
院内で転倒・転落した方の患者背景因子を統計学的に調査します。

使用する情報および個人情報の保護

抽出したデータには、患者さん個人番号（ID）と氏名が含まれています。患者さんの
IDを使用して、院内に所有する様々な臨床データを突合しますが、突合後の解析デー
タから、患者さんのIDと氏名を削除し、個人情報を再修復できないようにします。ま
た研究用パソコンは、インターネットにつながりません。論文化から10年以上はデー
タを保存しますが、その後に適切にデータを破棄します。

研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されません。

研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

研究責任者

赤倉（寺下）友子 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 後期研修医

共同研究者

瀬田 剛史 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 副部長

ほか、当科所属全医師・後期研修医

お問い合わせ先

日本赤十字社和歌山医療センター 総務課

電話 073-422-4171（代表電話）

所在地 〒640-8558 和歌山市小松原通 4-20